

検査項目説明

検査項目一覧

検査部門	検査項目	考えかた
体格	BMI	体重(kg)÷身長(m)÷身長(m)の式で算出し、18.5未満は低体重、25以上で肥満です。
	腹囲	空腹時に臍の高さで水平に計測し内臓脂肪面積の簡易推定法として採用されています。
血圧測定	最高血圧・最低血圧	高血圧の状態が続くと血管壁が傷み、心筋梗塞や脳卒中を起こす原因となります。
尿検査	尿蛋白	陽性の場合、糖尿病や腎炎など腎機能低下の可能性がありま。
	尿潜血	尿中に血液が混じる状態で、腎炎や感染などで出血性病変があると陽性になります。
肝機能検査	γ-GTP	肝胆道系酵素の一種で薬物やアルコール、肝炎による肝臓の負担で上昇します。
	AST(GOT)・ALT(GPT)	主に肝臓の細胞に含まれる酵素で、肝細胞の損傷時に上昇し肝炎等の指標になります。
腎機能検査	クレアチニン	腎臓の血液濾過機能を反映します。腎機能低下の指標になります。
	CKD重症度分類	尿蛋白/Cr比とe-GFRから慢性腎臓病の程度がわかります。詳細は、別紙「菊池養生園からのお知らせ」をご覧ください。
尿酸検査	尿酸	高値になると痛風・腎結石・心臓病などを起こしやすくなります。
脂質代謝検査	総コレステロール	血液に含まれるコレステロール量のこと動脈硬化の指標になります。
	中性脂肪	いわゆる皮下脂肪の主成分です。多い場合は肥満や生活習慣病の原因となります。
	HDLコレステロール	善玉コレステロールと呼ばれ、血中脂肪を運び出して動脈硬化(血管の老化)を防ぎます。
	LDLコレステロール	悪玉コレステロールと呼ばれ、血管壁に蓄積して動脈硬化を進行させます。
糖代謝検査	血糖(グルコース)	空腹時の血糖値と過去2ヶ月の血糖値を反映するヘモグロビンA1cを組み合わせること で、糖尿病の診断や長期の血糖コントロールの評価ができます。
	ヘモグロビンA1c	
	尿糖	
血液一般検査	白血球数	感染などで身体に炎症があるときや白血病などで高値になります。
	赤血球数	低値では貧血、高値では多血症が疑われます。
	血色素・ヘマトクリット	赤血球中の酸素を運ぶ色素の量や赤血球の体積比を表し、貧血の診断に用います。
心臓機能	心電図	心筋の動きを電的に記録して不整脈や心筋の虚血、肥大などの状態を診断します。